

## 日本海水学会第6回若手の集いを終えて

松本 真和\*

日本海水学会第57年会上に先立ち、5月29日に第6回若手の集いが開催された。今回の集いは、昨年10月に若手の活性化を目的とし発足した「若手の集い企画会」の初の催しである。企画会は、海水総研・正岡功士氏、秋田県立大・石川匡子先生、神奈川工科大・市村重俊先生と私の4名で構成され、若手の在り方、集いの企画等を定期的に議論してきた。2006年度は海水学会に関わりの深い瀬戸内での年会開催であることから、塩事業関連の工場見学会(於：株式会社日本海水讃岐工場)を催し、その後、懇親会(HOTELニューフロンティア)という2部制で企画した。参加者の皆様のご協力により、おかげ様で、見学会37名、懇親会33名+8名(役員、評議員の諸先生方)という多数の皆様にご出席をいただき、盛大に行うことができた。

見学会においては、スライドを用いて瀬戸内における塩事業の歴史、現在の製造工程について大変わかりやすく説明いただいた。工程見学では、12名1グループの小単位で、普段見ることができないプラントスケールの砂ろ過、電気透析、晶析、包装工程の詳細を見学させていただいた。見学後の質疑応答の時間では、若手からの多くの活発な疑問・質問に対し、非常に丁寧に返答いただいた。最後に、陰山透工場長から、今後の塩事業における日本海水としての取り組みや展望についてお話いただいた。一連の見学会を通じて讃岐工場の方々の塩づくりに対する「情熱」、「真剣さ」、「ひたむきさ」に直に触れることができ、若手にとって非常に貴重なメッセージとなった。参加者の中からは研究分野を問わず見学会に対する感謝の声が多数寄せられた。

懇親会では、ホテルのレストランにて、参加者間の交流を深め、様々な分野の研究に携わる仲間と意見交換を行うことができた。さらに懇親会の後半には、評議委員会を終えられた諸先生方に合流いただき、東京大学・中尾真一会長から、海水学会の現状と若手研究者への期待を込めたお話をいただいた。学会幹部の先生方と一緒に過ごす機会は非常に重要であり、豊富な研究経験を有する諸先生方との懇親は若手にとって非常に有意義なものであった。

また、参加者には、集いに関するアンケートを実施し、半数以上の方に回答をいただいた。「見学会が非常に有意義なものであった。興味深かった」、「新たな発見があった」、「貴重な体験ができた」、「参加者が多く交流を深められた」などの見学会・懇親会に対する感想や、集いの企画に対して「これからも現実のものを身近で接するような機

会を企画してほしい」、「塩だけでなく海水に関わるような企画がいい」などの要望、また、今後の集い活動について、「講習会、セミナー、実習のようなものがあればいい」、「みんなの背景が幅広いので、基礎的な知識を共有する場もあるとよい」、「学会の年会とは別に交流を持つ機会があってもよい」などの多数の助言・提言をいただいた。これらの皆様の意見を大切に、これからも将来の学会活動を担う若手の方々が、若手の集いで共に交流を深め、有意義な時間を過ごしていただけるよう企画会一同尽力いたす所です。至らぬ点多々あると思いますが、今後とも、ご指導、ご支援の程、何卒よろしくお願い申し上げます。



見学会の様子1



見学会の様子2

\* 千葉工業大学工学部 (〒275-0016 習志野市津田沼2-17-1)

最後になりましたが、見学会を快く引き受けてくださった株式会社 日本海水讃岐工場の方々に深く御礼申し上げます。また、企画の実現に際しまして財団法人 塩事業センター海水総合研究所・長谷川正巳所長，独立行政法人 産業技術総合研究所・廣津孝弘年会実行委員長，千葉工業

大学・尾上 薫総務理事を始めとする学会，実行委員会の諸先生方に多大なるご支援をいただきました。また，進行にあたって塩事業センターの皆様にもご協力をいただきました。紙面を借りて感謝の意を表します。



見学会の様子 3



懇親会の様子



第6回若手の集い集合写真（株日本海水讃岐工場にて）